

新市長が初めて手がけた
新年度予算で

どう変わった？ 市政の流れ

出口の見えない小泉不況・リストラ、サラリーマン
健保三割負担、底なしの政治腐敗……。
こんなときこそ市民のくらしを守るのが市政の役割

ですが、「国の改革は小泉、川崎の改革は阿部で」と
生じた新市長が提案した二〇〇二年度予算で、市民の
ねがい、市政の流れは、どう変わったでしょうか。

不況、リストラ、医療改悪
だからこそ 市政の役割が大事です



向ヶ丘遊園にて

よみどころ

- 新年度予算と日本共産党の論戦・主張…… 2面
- 共産党が138億円の「予算くみかえ案」…… 3面
- 臨海部開発「国際環境特別区」とは…… 3面
- 向ヶ丘遊園のみどり保全広がる運動…… 4面
- 介護保険の「減免基準」改善される…… 4面

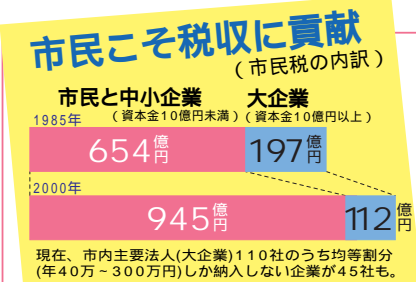
新市長の大規模プロジェクト 3面

「財政危機」を強調して市民のねがいは「緊縮予算」になっていきますが、かたや、破たんが明確な川崎港コンテナターミナルやファズ巨大物流センターには、公的資金の投入継続を正式決定。そのうえ新年度からファズ

”港の税金ムダづかい”やめず
川崎市の公的支援
3億円プラス
年8億円に

東京都でも昨年一〇月から実施され、阿部市長も市長選で「拡充する」と公約していた小学校入学前までの医療費無料化（あと年五億円）で可能。は見送りされました。
全国最悪水準の深刻な保育施設不足への対応策も、施設整備の計画が前市長より後退。児童保育は廃止、市立保育園は営利企業も含めた民営化にふみだします。
地元中小企業・商店への支援策も、おざなりです。

市民の切実なねがいは
残念ながら…



本当の行財政改革は…

地方自治体の一番だいじな仕事は住民の福祉・くらしを守ること。その本来の役割に立ち返り、財政危機の最大要因である不要不急の大規模事業をキッパリやめることこそ、市民のねがう「改革」です。歳入面でも、市民・中小企業のくらし・

営業を応援してこそ市税収入も増え、財政健全化に道が開けます。
港のムダづかいをやめず、新たな大規模開発をすすめるために「一にも二にも行革だ(阿部市長)と福祉を切り捨てるのでは、やることが“あべこべ”です。



第150号 2002年4月
日本共産党川崎市議員団
日本共産党川崎市委員会
川崎市川崎区榎町6-5-101 ☎ 211 3731

日本共産党川崎市議員団ホームページ <http://www.jcp-kawasaki.gr.jp/>

